

浜田市立弥栄中学校 第2学年 国語科学習指導案

日時 平成28年7月12日(火) 5校時

場所 2年教室

指導者 教諭 羽柴千晴 学校司書 横山貴子

1. 単元名 本で世界を広げるー「人権」をテーマにビブリオバトルをしよう
～読書に親しみ、ものの見方や考え方を広げ、深める～

2. 単元のねらい

- 自分が選んだ本の内容や著者のものの見方や考え方について関心をもち、感想を交流しようとする。
【国語への関心・意欲・態度】
- 本の内容や著者のものの見方や考え方を理解し、知識や経験と関連付けて自分の考えをまとめ、交流して深めることができる。
【読む能力】
- 話し言葉と書き言葉の違いを理解し、聞き手を意識して話し言葉としてふさわしい言葉を使い、話すことができる。
【言語についての知識・理解・技能】

3. 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
自分が選んだ本の内容や著者のものの見方や考え方について関心をもち、感想を交流しようとしている。	本の内容、筆者のものの見方や考え方について、ワークシートに記入しながら自分の知識や経験と関連付けて感想をまとめ、交流して深めている。(エ)	聞き手を意識して、話し言葉としてふさわしい言葉を使って話している。 (1)イ(ア)

4. 単元を貫く言語活動とその特徴

『人権』をテーマにビブリオバトルをしよう」という言語活動を、単元を貫く課題解決的活動として位置付ける。ビブリオバトルとは、本の魅力を紹介し合う書評ゲームである。自分が選んだ本をチャンプ本に選んでもらうために、生徒は著者の伝えたいことを読み取ったり、自分の考えや感想をまとめたりするために本を何度も読み返すことになる。どこをどう紹介するか考えながら、本の魅力を探っていく活動は生徒の主体的な学習につながり、指導事項【読むこと】エ「文章に表れているものの見方や考え方について、知識や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと」を確実に指導できるものとする。

5. 単元について

・本単元では、【読むこと】の言語活動例ア「詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること」を具体化した。本の魅力を伝える言語活動は、生徒が主体的に取り組める活動になることが大切である。そこで、本を紹介する発表の後に質問する機会のあるビブリオバトルの手法を用いることで、限られた

時間の中で友達に伝えることを意識したり、友達と語り合ったりしながら、本の内容や著者の伝えたいことに迫っていきたく考えた。準備として、本単元に入る一か月半前に教科書掲載文「小さな労働者」の出典である「ちいさな労働者」（あすなろ書房，1996年）の紹介スピーチを行った。「ちいさな労働者」は第一次世界大戦前のアメリカで過酷な労働に従事していた子どもたちを救おうとしたカメラマンのルイス・ハインの活動を紹介したものである。ハインは、写真展を企画したり、写真とその写真に付ける説明文とを組み合わせ「フォトストーリー」という表現方法を用いたりして人々に訴え、写真によって世論を動かした。著者のラッセルフリードマンは、客観的な社会派ドキュメンタリーのような進め方をしながら、ハインの仕事の社会的意義ではなく、その人の人間性に焦点を当てて全体を締めくくる。ハインの写真を効果的に配置し、ハインの言葉を引用することで臨場感を高めているところが作品の魅力の一つである。紹介スピーチでは、ハインの功績を、写真や言葉を紹介しながら当時のアメリカの児童労働の現実やハインの活動を支えたもの等について2分間で伝え、教科書掲載文をぜひ読んでみてほしいと話した。そして、「人権」をテーマにしたビブリオバトルを行うことを予告し、本を読んでおくように声かけをした。また、「人権」をテーマにした本は、なかなか手にとる生徒が少ないと考え、事前に学校司書と相談して、教科書の「読書案内」で紹介されている本を中心に「人権」をテーマにした本をリストアップし図書館にコーナーを作った。また、味見読書を行ったり、学校司書により人権をテーマにした本の読み聞かせやブックトークを行ったりしながら、関心をもって本を読み、紹介する本を選ぶことができるよう配慮した。

・2年生の学校図書館への来館率が高い。朝読書の時間に読む本も学校図書館から借りて読んでいるようだが、個々に読書することはあっても、読んだ本に関する情報を交換することはまだ少ないようだ。まして、本の話題が学級全体へと広がっていくことはほとんどない。そこで、昨年は、選書の幅が広がることをめざして、ビブリオバトルを3回実施した。1学期は全校縦割り班でこれまでに読んだ中でおすすめの本を持ち寄って生徒集会の形で行った。2学期は、9月に読書感想文を書いた本を友達に紹介するビブリオバトルを行い、11月には学習発表会で学校代表者によるビブリオバトルを経験した。2年生や3年生のスピーチから本の内容等についての情報を知り、その後、紹介された本を手にとる生徒も出るようになった。今回はその経験を生かし、夏休み前に生徒どうして本を紹介しあう場を設け、夏休み中の読書につなげたいと考えた。本学級は、授業の中でペアやグループ活動を多く取り入れてきたが、どの活動にも大変積極的に取り組む。国語の時間に学んだことが、朝礼時に行うニュース紹介スピーチやその他のスピーチ活動につながり、相手や目的を意識して話せるようになってきている。

・指導にあたっては、生徒自身が見通しをもって取り組み、生徒の主體的な活動になるようにしたい。「人権」をテーマにした本を事前に読んでおくことはなかなか難しい。リストの中から一か月半かけて自分が印象に残った本を探すが、部活やテストなどいろいろな日常生活に追われる毎日の中で普段読まないジャンルの作品に興味や関心を広げる良いきっかけになるようにしたい。授業では、本を読んで感じたことや印象に残った言葉などを手がかりに、自分が考えるその本のよさ、著者の思いや考えを端的にまとめ、紹介する相手に本の魅力が伝わるように話す内容を考える。その際に使用するワークシートは、書き込んだ内容が話す内容を構成するメモになるように工夫し、短時間でまとめられるようにしたい。その後のペアで行う練習で気づいたことも書き込ませ、少しずつ考えが深まっていくようにするとともに、聞き手として心がけることにも触れ、交流を通して本の魅力に迫ることができるよう指導したい。

6. 本実践とキャリア教育

本の魅力を相手に分かりやすく伝えるためには、話す内容を選び、思ったことや考えたことを適切に構成し、言葉遣いなどにも注意して発表しなければならない。また、相手の反応を確かめながら話すことも必要である。どのようにすれば相手に分かりやすく伝えることができるのか、相手の話を引き出すためにはどのような質問をすればいいのか等、生徒に話し手と聞き手の両方の立場を経験させることは、社会生活に生きる効果的な学習だと考える。ビブリオバトルを通して、相手に応じて生き生きと話したり聞いたりできる力と、豊かな人間関係を築いていくことのできる力を身につけさせたい。

【お互いに高め合い、伸びていこうとする力（人間関係形成・社会形成の能力）】

7. 単元の指導計画と評価計画（全3時間）

時	目標	主な学習活動	評 価			
			国語	読む	言語	評価規準（評価方法）
1	学習全体の見直しをもつ。 紹介したい内容を考える。	①「ちいさな労働者」のブックレットやPOP（学校司書作成）の紹介を聞く。 ②ビブリオバトルのルールを思い出す。 ③どんなことを紹介すれば、相手を読みたくなるかを考えながら紹介する項目を押さえる。 ④自分が選んだ本についてワークシートに書き込みながら紹介することを決める。	○			【国】学習活動に見直しをもち、自分が選んだ本の魅力を見つけようと、意欲的に取り組んでいる。 (観察)
2	ワークシートをもとに発表練習をする。 ペアで練習をしながら伝え方を考える。	①前時のワークシートをもとに紹介する内容や構成を考えながら発表練習をする。 ②ペアで練習し、アドバイスし合う。			○	【言】聞き手を意識して、言葉遣いなどに注意して話している。 (観察)
3 本 時	ビブリオバトルを行う。	①3人でミニビブリオバトルを行い、チャンプ本を決める。 ②グループの代表5人によるビブリオバトルを行い、チャンプ本を決める。	○	○		【国】自分が選んだ本の魅力を伝えようと意欲的に感想を交流しようとしている。(観察) 【読】本の内容、著者のものの見方や考え方について、自分の知識や経験と関連付けて感想をまとめ、交流して深めている。(発言・ワークシート)

8. 本時の学習（3時間目）

①本時のねらい

- ・自分が選んだ本の魅力を伝えようと意欲的に感想を交流しようとする。 【国語への関心・意欲・態度】
- ・本の内容、著者のものの見方や考え方について自分の知識や経験と関連付けてまとめ、発表したり、友達と感想を交流したりしながら、自分の考えを深めることができる。 【読む能力】

②本時の展開

学習活動	教師の支援	評価（評価方法）
1 本時の学習のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">ビブリオバトルを通して自分の考えを深めよう</div>		☆自分が選んだ本の魅力を伝えようと意欲的に感想を交流しようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】 (観察)
2 3人グループでミニビブリオバトルを行う。	○ビブリオバトルの流れを確認する。 ①本の紹介（2分） ②その本に対する質問タイム（1分） ①②×3人 ③チャンプ本を決める。	☆本の内容、著者のものの見方や考え方について、発表したり友達と感想を交流したりしながら、自分の考えを深めている。 【読む能力】 (発言・ワークシート)
3 代表5名によるビブリオバトルを行う。	○3人グループで行ったのと同じ流れで実施する。質問タイムは2分にする。	
4 学習を振り返り、自分の考えを深める。	○自分が紹介した本についてビブリオバトルをしながら気づいたことがないか、友達の質問に答えながら考えたことはないかを考えるように指示する。	

③本時の評価

	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
国語への関心・意欲・態度	相手の反応を確かめながら、本の魅力を意欲的に伝えたり、積極的に質問したりしながらビブリオバトルに参加している。	ワークシートに記入したことをもとに相手の反応を確かめながらビブリオバトルに参加している。	ワークシートを見直し、前時に練習した内容を確認するよう助言する。
読む能力	本の内容や著者のものの見方や考え方を相手の反応を確かめながら話したり、質問に答えたりしながら、自分の考えを深め、気づいたことや考えたことをワークシートに書き込んでいる。	本の内容や著者のものの見方や考え方について話し、交流の中で気づいたことや考えたことをワークシートに書き込んでいる。	発表した時の相手の反応や質問されたときの自分の答えを思い出すように助言する。

④授業研究の視点

- ・ビブリオバトルの手法を取り入れた授業展開を考えたことは、自分の選んだ本の内容や著者の思いや考えを読み取り、自分の考えを深めるために有効であったか。